

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102499		
法人名	医療法人 社団 敬愛会		
事業所名	敬愛シニアガーデン桜堤		
所在地	福島市八木田字井戸上50-1		
自己評価作成日	平成23年12月22日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々を感じていただけるよう行事を取り入れたり、外食やドライブの機会を多くしている。個人を尊重して居ごごちの良い空間作りをユニットの目標をかかげ職員の意識向上へ切磋琢磨している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、運営推進会議の効果的活用が図られており、事業所に設置されてある投書箱を会議の際に開示し委員との意見交換を行うなどして、サービス向上や運営改善に反映させている。  
2、3・11の大震災を踏まえ、事業所として災害時の情報伝達を円滑に行うため、地震、水害、原子力災害、噴火などに該当した災害が発生した場合の災害伝言ダイヤルによる情報発信操作を記載した、「災害時の情報伝達マニュアル」を作成し、利用者の家族等に対する的確な情報発信に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、事務室に掲示して全職員で共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。	「利用者様が地域の人々と共に、出来る限り自立した生活ができるようお手伝いします」の理念を玄関や事務室に掲示し、ユニット毎に目標を掲げ日々共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、事業所の広報を回覧していただいている。町内会主催のふれあい広場に参加している。	地区町内会が行っている「ふれあい広場」や地域のボランティアが開催している「ふらーつと茶の間」に参加し交流を深めている。そのためなじみの方ができ利用者に声をかけてくださるため参加を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方へ出席を求め、参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議の中で行事報告や事故報告をしている。また、意見、要望を出して頂き、話し合っている。	運営推進会議は定期的で開催しており、地域包括支援センターの担当者をはじめ、多くの家族が参加し話し合いが行われており、外部評価結果の報告もなされている。また、意見箱を開示し意見交換等を行い改善等に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターから出席して頂いている。	法令の解釈等の情報をFAXなどを利用し助言指導を受けている。また、運営推進会議に参加する地域包括支援センター委員との連携が密であり、適切なケアサービスについての協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修で学んだことを伝達講習し、全職員が身体拘束にあたる行為を理解し実践に努めている。	身体拘束をしないケアの方法を外部研修で学び全職員に伝達講習をしている。内部研修では「単独外出」願望の利用者の対応について具体的な事例をあげ検討会を行い身体拘束をしない効果的ケアの方法を職員間で実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の内部研修を行い、意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習会を開き、それを利用した方については協力した。今後も適切に支援出来るよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、必ず読み合わせを行い、利用にあたっての説明を行なっている。また、内容を改訂する時は、運営推進会議で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置して運営推進会議の中で開けて話し合っている。家族との会話の中で話しやすい雰囲気作りに配慮している。	運営推進会議での意見箱の開示や来所時の家族からの意見要望等の把握により、事業運営に反映させている。食事内容など利用者からの小さな要望でも真摯に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議の中で職員から出た意見、提案を反映できるように努めている。	全体会議を定期的で開催しており、管理者も参加し職員の要望等を聴く体制がとられている。職員休憩室にエアコンが設置し就労環境の整備が図られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の経験を生かし働きやすい職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加し、また報告会で介護技術知識を伝達し職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県GH連絡協議会に加盟し、会議、研修にその都度出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけ本人に見学してもらい、納得の上で入居してもらうことにしている。初期には、特に関わりを多くし混乱を最小限にし、馴染んでいただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から家族のニーズや悩みを聞き、入居後も時間を取り、不安が解消され信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査の情報を元に現在の症状などで必要としている事柄を見極めた上で支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、縫い物等を一緒に行い、利用者に教わる事を職員は大切にしている。利用者各々が役割を持つことによって共に支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、手紙などで家族との連絡を密にして情報を共有し、本人にとって何が一番必要か話し合い協力を求め、共に支えられる様な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ家族同伴で出掛けたり、親族の方の面会を通して今までの関係が途切れないよう支援している。美容師が事業所を訪れるなどして出来るだけ馴染みの関係が維持できるよう支援している。	馴染みの場所に家族と出かけたり、理容室や美容室も馴染みの店を利用できるよう配慮している。地域で開催されている「ふれあい広場」にも参加し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が、共に穏やかに過ごせる様に席替えをして環境作りに努めた。また、利用者同士が居室を訪れ共に支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、これまでの関係を大切にしながら相談があればいつでも対応すると伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、その都度本人の意思を聞いている。意思表示が出来ない場合は、ご家族の意向を合わせ本人本位に検討している。リビングの様式替など、普段から一人ひとりの望みを聞いて職員間で話し合いをしている。	日常生活の中から利用者の意向把握を行うとともに家族の意向も取り入れ自立支援を基本にしたケアに努めている。また、東京センター方式の心身の情報を把握するシートに利用者の姿と気持ちを記載し暮らし方の希望等の把握も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、「聞き取りノート」を活用して、これまでの生活歴、生活環境の把握に努めている。また、家族の面会時には本人からは得られない情報を聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については、職員が気付いたことを共有して把握している。一人ひとりの能力、可能性を引き出せるように会議で話し合いをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に状況を説明している。利用者と家族の要望を取り入れ、スタッフ間で話し合い現状に即した介護計画の作成に努めている。	利用者や家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。ただ、介護計画の支援内容に即した具体的な記録が乏しい。従って、検討会議で話し合っている課題が記録の中からは見えていないため評価の根拠が明確でなかった。	介護計画の支援内容に即したサービス内容の記録が重要である。基本的には、記録内容を基に検討会議で話し合い適切な評価を行うとともに目標も含めた計画の変更が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の介護記録に利用者の様子や気付き、対応を記載し、申し送りノートを活用して情報共有に努めケアプランに生かしている。また、家族の面会時には記録を開示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	趣味、嗜好の多様化に応えるために、できる限り個人の要望を取り入れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアのご協力で民謡・詩吟・絵手紙等を楽しんでいる。また、地域の行事に毎月参加したり、保育園児の訪問、中学生の体験学習受け入れを行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があればかかりつけ医による継続的な医療を受けてもらっている。協力医療機関は24時間対応可能で月2回の往診が行なわれている。	家族や職員によって、利用者のかかりつけ医による継続的医療受診が行われている。医療機関との連携も適切になされ医療機関受診記録を基に受診内容等を職員間で共有し、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化を見逃すことなく小さな気づきでも看護師に報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報提供を行なっている。入院期間中は、職員の面会時、また、家族を通して状態を確認して連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方について家族と話し合い、出来る事の説明を行なっている。	看取りに関する指針に基づき、医療連携体制を整え利用者・家族に同意を得ながら、事業所の対応方針を説明している。看取りに関する職員研修を行い支援方法の充実を図ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルがある。定期的に勉強会を行い様々な症状に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。火災や水害発生時には、地域の消防団に応援してもらえよう話し合いがされている。震災後には、非常食の保管を見直した。また、家族への安否伝達方法をマニュアル化した。	消防署立会を含めた年2回の防災訓練はもとより毎月自主的に避難訓練を実施している。災害時の情報伝達マニュアルを作成し家族等に伝達する手順の周知を図っている。備蓄の見直しを行い整備している。運営推進会議を通して地域住民の継続的訓練参加を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について理解し、介護記録はスタッフルームで管理している。利用者に対する言葉使いに気を付け、職員同士でも注意している。	個人情報保護に関する研修を実施し実践している。職員は利用者の尊厳を意識し、言動にも留意ながら支援している。情報管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが、自分で決めた希望を表したりする場面を日常的に作り、言いやすい様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや望んでいる思いを大切に支援し、利用者の表情を見ながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット、カラー、パーマの希望を聞いて、出張美容室を利用している。洋服や化粧品については、自由にその人らしいおしゃれが楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に食材を切ったり盛り付けを行なっている。食事を一緒に味わいながら、和やかに食事が出来ている。	食事に関する一連の作業も利用者職員で一緒に行っており、食事を1日の活動の一つとして捉え、楽しい時間を共有するよう支援している。食事内容にも利用者の希望を取り入れ栄養管理にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基に、その人に合わせた刻み食やとろみ食の提供もしている。脱水には特に気を付け、介護記録に1日の水分摂取量を記録して健康管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にうがい、歯磨き、義歯洗浄をしている。さらに、義歯は就寝前に預かり、磨き残しのチェックや除菌を行っている。月2回は訪問歯科診療を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や動作などを把握して、一人ひとりの排泄を確認して記録に残している。そのことにより、ほとんどの方が自立している。	排泄チェック表により利用者の排泄状況を把握し、日常的な様子を察知し、さりげなく自立排泄を支援している。車いす利用者等身体機能に応じ排泄支援方法を工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し管理している。また、体操や歩行訓練だけでなく腸を刺激する体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週5回が入浴日で公平に入浴している。季節感を感じてもらうために、ゆず湯、菖蒲湯などを取り入れている。	入浴環境に配慮し利用者の生活習慣や希望に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、暖かい飲み物を出したり、傾聴したりと利用者の休息パターンを把握してゆったりと休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬を把握するために、薬の変更時には連絡ノートで職員全体に確認してもらい、介護記録の後ろには服薬一覧表を作りすぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗濯物の整理、掃除など出来る範囲で行なっていただき、役割や楽しみがもてるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば、戸外へと個別に対応して出掛けている。また、家族の協力のもとバス旅行を毎年行っている。震災後、外出の機会が減っていたが、落ち着いたからは外食、ドライブ、散歩など利用者の希望に添った支援をしている。	日常的な散歩等の外出のほかに家族同行のバス旅行を行っている。旅行先についても運営推進会議に参加した家族の意向を取り入れるなどして協力を得ながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人は、常時3千円～5千円所持し使ってもらっている。自己管理の難しい人も外出時などには、希望に応じ好きな物を職員が付き添い一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援	家族などへの電話の希望があればその都度かけてもらっている。手紙やはがきは、やり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機や加湿器を設置すると共に、室温・湿度をこまめに管理し快適な生活ができるようにしている。季節ごとの飾りや、行事の写真、利用者の作品を掲示する事で、自然にコミュニケーションが図れるよう工夫している。	天井が高く広々とした共用空間には絵画や利用者が作成したカレンダー、書やつるし雛等季節に合った作品が飾られている。季節がら空気清浄器や加湿器を設置し、利用者の健康管理に努め快適な生活を提供する努力がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、利用者の関係に配慮し、必要に応じ席替えをしたことで、居心地よくなり長時間過ごせるようになってきている。また、こたつを設置する事で、気の合った人と自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室には、ベッドとクローゼットが設置されているが、利用者の使い慣れた家具や冷蔵庫、テレビ、仏壇等を持ち込み暮らしやすい環境を整えている。	広い居室は利用者が生活しやすいパターンを大切に構成されている。生活用品(は)なじみの家具や飾りを持ち込み、自宅同様の生活が維持されるように配慮されている。精神的にも物質的にもその人らしく馴染みの環境のなかで安心して生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のために、ベッド脇に椅子やソファを置くなどして工夫している。トイレの位置がわかるように矢印や貼り紙を目線の高さに調節した。また、自分の居室がわかるよう名前を見易くした。		